

(様式第1号)

みなとSDGsパートナー 登録申請書

2025 年 8 月 25 日

国土交通省港湾局長 殿

みなとSDGsパートナー登録制度実施要綱第4条第1項に基づき、下記のとおり登録を申請します。

1. 概要

企 業 ・ 団 体 名	商船港運株式会社
所 在 地	兵庫県神戸市中央区港島 9-10
代 表 者 役 職 ・ 氏 名	代表取締役 社長執行役員 居城 正明
担 当 者 連 絡 先	電 話：078-304-1200
	メール：r-hayashida@shosen-koun.com
ウ ェ ブ サ イ ト U R L	https://www.shosen-koun.com/

2. 港湾関係企業等としての事業の概要

当社事業はコンテナターミナル部門、港運部門、物流部門の三部門から構成されており、それぞれの概要は以下のとおりです。	
【コンテナターミナル部門】 当社は大阪、神戸両港においてコンテナターミナルを運営しており、コンテナの積み降ろし、保管、受け渡しを一貫して行うとともに、バンプール業務（空コンテナの保管・修理・管理）も合わせて行っています。	
【港運部門】 神戸港と大阪港を拠点に、在来船、自動車船、内航船（コンテナ船、RORO船）の荷役、貨物の保管から、バン詰、バン出し作業を 行っています。	
【物流部門】 神戸・大阪両港を中心として貨物の輸出入通関業務、船積み・荷捌き、配送および倉庫業務を行っています。また、お客様の要望に沿って当社以外の輸送手段を組み合わせ、最適な輸送サービスを提供することも行っています。	

3 側面	SDGs 達成に向けた重点的な取組	2030 年に向けた指標
□環境 ✓社会 ✓経済	ステークホルダーとの関係を良好に保ち、ひいては働きやすい職場作りを通じて雇用の安定と生産性の向上に資するため、法令遵守を徹底する。このため、これらに関する研修を定期的実施する。	コンプライアンス/ハラスメント関連研修 【現状】数年に1回 【目標】年間1回
✓環境 □社会 ✓経済	自社の事業活動によるエネルギー使用量・CO2 排出量を把握し、その削減に努める。	エネルギー使用量にかかる原単位 【現状】2.2 【目標】2.0（2030 年目標）

SDGs達成に向けた具体的な取組

カテゴリー	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																			
人権・労働	1【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	・人権の尊重及び差別・ハラスメントの禁止をコンプライアンス規程に明記し、社内外で相談窓口を設置している。 ・年に1回eラーニングを実施し、人権への取り組みに対する社員の理解促進を図っている。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
	2【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	・コンプライアンス規程に加えハラスメント防止規程を制定し、あらゆるハラスメントの禁止と相談体制について規定している。 ・役職員全員が参加するハラスメント講習をしている。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8								16.1	
	3【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	・就業管理システムおよびエクセルファイルで、所定外時間外、法定外時間外、休暇取得状況を管理している。								8.5 8.8									
	4【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している					4.4				8.5 8.7 8.8		10.2 10.3							
	5【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	・月1回安全衛生委員会を開催し、労働環境を逐一チェックしている。 ・階層別に安全講習を随時開催しており、安全意識の向上に向けた取り組みを行っている。			3					8									
	6【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	・社内研修制度のひとつに階層別研修があり、メンタルヘルス研修受講を必須としている。 ・年1回ストレスチェックを実施している。			3														
	7【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	・育児休業、介護休業、再雇用に関する規定を整備し、多様な働き方の実現に向けて取り組みを進めている。					5.1 5.5			8.5		10.2 10.3							
	8【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	・社内研修制度（階層別研修、WEB研修制度）、全社員対象の集合研修を通年で実施している。 ・「資格・技能」修得者に対する報奨金規程に通信教育制度や資格取得費用の一部補助を明記している。				4	5.5			8	9								
	9【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	・顧問社労士に相談しながら、法改正に合わせて規約規程を随時整備している。					5.5			8.5		10.2 10.3							
	10【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる				3					8									
環境	11【3Rの推進】 ・事業活動等から発生する廃棄物の管理及び処理を適切に行う等、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進に取り組んでいる	・ゴミの廃棄を産業廃棄物収集運搬許可を得ている産廃業者に委託しており、適切に管理及び処理を行っている。 ・鋼材のコンテナ積み付けに組立式の反復使用型資材を導入し、固縛用木材の使用・廃棄を削減している。										11.6	12.4 12.5		14.1				

カテ ゴリ	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																			
12	【エネルギー】 ・ 自社のエネルギー使用量を把握し、エネルギー利用の効率化を進めている	・ 毎年度のエネルギー使用量を把握し、削減目標の達成状況を確認している。 ・ 省エネ型荷役機器の導入を進め、毎月の燃料使用量把握によってその効果を確認している。							7.3						13				
13	【温室効果ガス】 ・ 自社の温室効果ガス排出量を把握し、排出量の削減を進めている	・ 毎年度のCO2排出量を把握し、削減目標の達成状況を確認している。 ・ 省エネ型荷役機器の導入を進めている。							7.2 7.3					12.4	13.3				
14	【有害化学物質】 ・ 法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	・ 化学品輸送コンテナの洗浄を行う子会社事業において、廃液の適切な管理・廃棄を行っている。			3.9			6.3					11.6	12.4					
15	【生物多様性】 ・ 自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	・ コンテナ水洗い後の水は適切な方法で処理し、下水道に排出して海洋環境の保全に留意している。						6.6									15		
16	【水の管理】 ・ 水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる							6.4 6.6											
17	【環境マネジメントシステム】 ・ ISO14001、または同等の環境マネジメント規格を取得している	・ グリーン経営認証を取得している。			3.9			6	7					12	13.3	14	15		
18	【環境情報開示】 ・ 環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	・ 自社ホームページにおいて環境の取り組みを開示している。												12.6					
19	【再生可能エネルギーの利用】 ・ 再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	太陽光発電装置の設置を進めており、2026年度内に稼働開始予定。							7.2						13				
20	【天然資源の持続的利用】 ・ 天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる													12.2	13	14	15		
製品・サービス	【製品・サービスの安全性】 ・ 製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	・ サービスの安全性確保を経営の最重要課題の一つと位置付け、社長を委員長とする安全作業委員会が決定する方針の下、担当役員に直属し他の部署に属さない安全対策室が、全社的な安全活動を立案・実行する体制を構築している。			3.9									12.4					
	【品質保証】 ・ 品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	・ 顧客によるパフォーマンス評価と独自の効率指標を月次会議で共有し、状況把握と必要に応じた改善策検討を行う体制を構築している。									9								
	【環境配慮】 ・ 環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	・ 省エネ型荷役機器や、将来的に水素燃料電池電源装置に換装可能な荷役機器の導入、或いは効率的なオペレーション等により、サービスの環境負荷低減に努めている。 ・ フェリーを使った一貫輸送サービスの提案により、モーダルシフトを後押ししている。							6					12	13	14	15		
	【社会課題解決】 ・ 社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	・ コロナ禍といった困難な状況にあっても社会インフラである港湾作業を止めず、物資の輸出入を支えることによって、世界の人々の暮らしと産業に貢献している。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
社会貢献・地域貢献	【地域への配慮】 ・ 自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	・ 同業他社との共同運営によって使い勝手の良い3パース連続のコンテナターミナルを構築し、神戸港の国際競争力向上に貢献している。 ・ 国・地方公共団体が推進するCNP(carbon neutral port)構想に、実証実験等を通じて協力している。 ・ HPを通じた事前の情報提供等により、外来車両のゲート前待機の軽減に努めている。				4					9	11	12		14	15		17	
26	【社会貢献活動】 ・ 寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	・ 学校等のコンテナターミナル見学を受け入れている。 ・ 海洋人材育成プロジェクトに参加し、探求学習に欠かせない課題を学校に提供している。				4						11			14	15			17

